

臨床心理士として、 人々の笑顔を たくさん咲かせたい。

社会人を経て、 大学・大学院に進学。

チャレンジを楽しむ——その生き方を大切に
にする私は、高校卒業後、営業事務などの
多様な職種でキャリアを磨き、オーストラ
リアでのワーキングホリデーにも挑戦。社会
人として多くの経験を重ねる中で「すべて
の仕事、人と人との関わりにおいて、『心』の
専門知識が必要だ」と実感しました。そし
て、心理学を学ぼうと決意し、33歳のときに
コミュニケーション学部コミュニケーション
心理学科(現・心理学部)に入学しました。
愛知淑徳大学を選んだのは、心理学の専
門領域で活躍の先生方が数多く在籍し
ていると知ったからです。充実した学修環
境のもと、4年間、生理・認知心理学、社会
心理学、発達心理学、臨床心理学を幅広
く学び、ゼミでは「子どもの発達」を追究し

ました。さらに、臨床心理士の資格を取得
したいと考えようになり、大学院に進学。
心理臨床相談室で心理面接の研修に励
み、クライアントの方一人ひとりの心と向き
合う姿勢を学びました。

起業し、心理学の専門性を 社会に広く還元していく。

大学院修了後、臨床心理士の資格試験に
合格。心理学の専門性を活かす道を自分で
切り拓きたいと考え、2012年にカウンセ
リング、子育て支援、発達障がい児の学習支
援、企業や自治体のメンタルヘルス活動など
を行う組織D・RAIMを立ち上げまし
た。そこで大学・大学院で培った知識を社会
に還元していく中で新たに必要性を感じた
のが、発達障がい児の成長を支える場所を
増やすこと。各市町村の保健センターで発
達相談や健診などに携わり、どの地域に

おいても療育施設が不足しているという現状
を知ったのです。「足りないなら、私がつくろ
う！」と考え、2014年、療育施設「のびハ
ピ園いぬやま」を愛知県大山市に開設しまし
た。3年目を迎えた現在、約25人の子ど
もたちが通園しています。療育を専門とする
保育士のスタッフと共に、子どもたちの発達
や個性に応じた療育・支援プログラムを考案
し、一人ひとりの心身の成長を支えています。
障がいがあるとしても、子どもたちは素敵な
可能性を秘めています。その力を引き出し
て、伸ばしていくきっかけをつくることができ
たらと願っています。

愛知淑徳で学ぶ学生・生徒の皆さんも、
興味があることには臆せずチャレンジしてい
きましょう。まわり道や寄り道も人生の糧に
なります。自分の心の声に耳を傾けながら
前へと進み、自分らしい道を思いきり楽しん
でください。



個別の心理カウンセリングだけでなく、企業
や官公庁から依頼を受け、メンタルヘルスに
関する講演会も開催しています。



卒業後、沖田先生の最終講義にて。お世話
になった先生方とは現在もよくお会いし、一緒
にお酒を楽しむことも。

株式会社D-RAIM代表
臨床心理士 **上圓 幸子さん**

愛知淑徳大学大学院心理学研究科心理学専攻を2011年3月に修了。臨床心理士資格を
取得。2012年に起業し、幼児から成人までの心理カウンセリング、子育て支援、企業のメン
タルヘルス活動などに従事。2014年、療育施設「のびハピ園いぬやま」を開設。